

熊本での地震体験

ディビャさん、リピカさん夫妻(インド)

【2016年4月14日】

午後9:25、私は大学から戻り、自宅でお茶を飲んでいました。突然、5秒間程だったのでしょうか、強い揺れが起こりました。まるで洗濯機の中に入ったかのような、凄まじい騒音がしました。何が起きているのか理解するまで、3秒程かかりました。こんなことが起こるなんて、全く予想もしませんでした。後日、これはマグニチュード6.4の揺れだったと聞きました。

私達はアパートの2階にいました。身を守るため床にうずくまる代わりに、私は開けた場所を求めてドアへ、そして階段へと走りました。これが私の第一の間違いでしたが…2～4分ほどの間隔で、余震が次々と起こりました。30分後、アパートを出て熊本大学のグラウンドに集まるよう、知らせがありました。

午後10:15分まで、私たちは何の食べ物も口にしていませんでした。幸運にも、私たちは夕食にピザ注文していました。そのため、簡単な食事を取ることができました。大急ぎで、ジャケット、シーツ、軽食、身づくろいに必要な物といった、最低限必要なものだけをバッグに詰めました。持っていける物は出来るだけ持ち出そうとしました。余震が来る度に、家から逃げなければ…と必死でした。

午後10:30頃になり、私たちは大学のグラウンドに到着し、大勢の人が同じように集まって来ているのを目にしました。人々はみなショックを受け、興奮して携帯で自分たちの写真を撮ったりもしていました。

様々なお知らせが流れましたが、みな日本語だったので、何と言っているのか、私たちには理解することができませんでした。1時間程経つと、私たちはそれぞれの家へ戻り、貴重



避難したグラウンドの様子

品を持って近くの避難所へ行くよう言われました。私と友人たちは、歩いて数分の距離にある桜山中へと向かいました。私たちはそこで一夜を過ごしました。避難している大勢の人達の恐れや、緊張した空気をひしひしと肌と感じました。それ以外にもうわさ話やひそひそ話、赤ちゃんの泣く声や、反対にショックで押し黙る人々など、現場は混乱を極めていました。揺れが続く中、私は何とか眠ろうとしましたが、また地震が来た時に素早く逃げられるよう、靴や服は全て身に付けたままでいました。

【15日 朝】

私たちは午前8時頃に家へ帰りました。家は、全く違う場所に見えました。全ての物が床に落ち、まるで恐ろしいお化け屋敷や廃墟のようでした。私たちは神に、どうか安全でいられますようにと祈りました。もうこれ以上、このような地震はありませんようにと…情報では、一週間程、余震が続く可能性があるとのことでした。実際余震は、20～40分程の間隔ですっと続いていました。しかしこの時は、前夜に比べて余震の数が減ってきているように感じ、私たちは少し安心し始めていました。私達はこの経験について両親や親戚に話したり、興奮状態で一日を過ごしました。SMSやwhatsapps、それ以外のソーシャルメディアは、メッセージでいっぱいでした。もう地震は来ませんように…と祈りながら、私は料理をし、映画を観ました。私たちは、昨日詰めた非常用持ち出しバッグの中身を片付けました。これが私の第2の間違いでした。夜まで、震度4～5の余震が続きました。静かな夜で、私たちは散歩に出かけようかと考えました。午後11:30頃だったのでしょうか。街全体が、何か不気味な雰囲気でした。人っ子一人、誰もいません。私は静けさを愛していますが、その夜は全く心地よいと思うことができず、今までのどんな夜とも違いました。まるで、大惨事の気配がそこら中に満ち溢れているようでした。その恐ろしい空気の中にいることができず、私たちは急ぎ家へと戻りました。

【16日 夜】

午前1:24、私は、YouTubeでスポーツを観戦していました。最初はゆっくりと、しかしいつもより格段に強い揺れが、より長く始まるのを感じ、これは大変なことになると直感しました。その一瞬後、揺れは大地を揺るがす轟きとなり、周りの全ての物をたたき落としました。この時も、私は冷静を欠いてしまい、自分の身の安全を守る行動を取ることができませんでした。私の心臓は、助けを求めて叫び声をあげました。私はまたもやドアに向かって走りましたが、今回は続く揺れでバランスを保つこともできず、ドアを開けることはできませんでした。何とかドアを開けた後、続く揺れの中を階段へと走りましたが、(これが私の3つ目の過ちでした)私は脚に怪我をしてしまいました。

何とか安全な場所へとたどり着きましたが、人生で最も恐ろしい夜でした。私がお風呂場やトイレにいなかったことは、不幸中の幸いでした。今回の地震は昨夜の揺れよりも強く、マグニチュード7.1/7.4だったと聞きました。街中でサイレンの大きな音が鳴り響いていました。亡くなった人もいる、という噂を耳にしました。たくさんのヘリコプターの音が聞こえ、警察はあちらこちらで奮闘し、ただちに避難をと呼び掛け